

社会健康医学とは？

コロナ禍が引き金となって、公衆衛生学に対する期待が一層高まる中、県は平成30年度から進めてきた社会健康医学の研究を、本年度一気に加速させた。

社会健康医学とは、集団を対象にさまざまな角度からデータを分析し、潜在的な健康課題を発掘しながら、その原因や実行可能な解決策を科学的に明らかにし、社会に実装をする学問。本県の研究は、「医療ビッグデータの活用」「健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究」「ゲノムコホート研究」の3本柱から成り、目的は、健康増進や疾病予防の対策などに科学的な知見を導入し、健康寿命の延伸を図ることだ。

医療ビッグデータの活用は、受診時に発行されるレセプト（診療報酬明細書）や国民健康保険加入者

人づくりを通じて、新しい地域のあり方を創生する静岡県。富国有徳の精神で切り開く明るい未来の背景には、人と地域が生み出す革新力がある。

今回は、社会健康医学の研究で、健康寿命の延伸を図る取り組みを紹介する。



静岡社会健康医学大学院大学の校章

静岡の社会健康医学研究が世界を変える！

の健診などのデータを解析することで、予防医学に対するエビデンス（科学的根拠）を創出し、地域ごとに異なる健康課題も可視化する。疫学研究は、生活習慣に関する行動を観測・評価し、食習慣や日常生活活動とメタボ・高血圧などの関連性を立証して、疾病予防や臨床研究への応用を図る。

ゲノムコホート研究は、地域や職域の集団を長期にわたって追跡しながら、さまざまな疾患のリスク因子を明らかにし、特定の疾患に罹患しやすい遺伝子を見つけ出すことで、効果的な疾病予防の実現と病因の解明を目指す。

これらの研究成果の還元と、研究を通じて行動変容を促すことで、健康寿命の延伸を図ることが狙いだが、研究の成果は、本県のみならず全国や海外においても有用であり、本県の研究は、世界の公衆衛生学の羅針盤になり得る。

中核を担う教育研究機関

研究の中核を担うのは、「静岡社会健康医学大学院大学」。ここは「最先端の研究」「高度専門人材の育成」「成果の社会還元」を3大ミッションとして掲げる、全国的にも斬新で先鋭的な教育研究機関だ。開学は令和3年4月だが、「県立総合病院リサーチサポートセンター」で平成30年から先行して研究に着手していた。そのため、これを引き継いだ同大学は早くも成果を挙げており、健診の結果から見た、①その後の「人工透析導入」につながる要因、②その後の「要介護認定」につながる



授業はオンラインでも参加することができ、約半数の学生はオンラインで参加している。

要因、③BMI（ボディマス指数）とフレイル（加齢により心身が衰えた状態）との関係の解析などが報告されている。また、将来の疾患（脳卒中：心筋梗塞・人工透析導入）の、発生のしやすさを予測する保健指導支援アプリ「静岡すこやか未来予想」も開発するなど、研究と社会還元に取り組んでいる。

長期間の追跡を要するゲノムコホート研究も始まっている。同大学は、令和3年10月に伊豆半島南部の賀茂地域1市5町と研究に関する協定を締結し、12月の松崎町を皮切りに同地域におけるゲノムコホート研究「かもけん！」をスタートさせた。かもけん！には、同大学のみならず県立大学、常葉大学も参画し、またロゴマークを静岡文化芸術大学の先生がデザインするなど、県内の高等教育機関が連携して取り組む事業となっている。今後は定期的な健診や測定を通じて、生活習慣病の要因分析を行うとともに、健康寿命の延伸を促す施策などを助言し、県や市町、住民と手を携えて健康づくりを推進していく。賀茂

知と人材の拠点づくり

地域は住民の超高齢化が進み、また塩分の高い食文化を有するエリアでもあるため、今後得られる研究成果は、全国においても有用な指針になるはずだ。

同大学は、高度な専門人材の育成にも力を注ぐ。院生（学生）は、現役の医師などの医療関係者や保健師、製薬企業職員など、医療関連分野で実務経験を持つ社会人だが、一様に新たな学識で世界の医療に貢献したいという志を抱いている。在学生からは「在学中に利用できるビッグデータを活かして、臨床に還元できる研究をしたい」「業務内で統計学や疫学の知識を基礎から応用まで学ぶのは困難。新たな知見を得て視野を広げたい」「大量の臨床データを処理する経験を積み統計学的な知識を学ぶことで、新たな臨床支援につなげたい」といった声が聞かれる。同大学の宮地良樹学長は語る。「私たちの目標は、実践的な研究を進め、その成果を社会へ還元すること。そのために人材を育て、送り出

し、人を起点に社会健康医学を発展させることも大切なミッション。目指すのは、国際社会に貢献する、知と人材の拠点づくりです」。注目を集める本県の社会健康医学研究は、同大学を基軸として、さらなる加速と発展を遂げるだろう。



「静岡でモデルケースを作り、日本や世界に発信し、社会を変えていきたい」と語る宮地学長（右）と田原研究科長（左）。



かもけん!のロゴマーク



かもけん!にて、眼科の検査や歩行速度の測定を行っている。



現場での課題解決に役立つ最先端の教育研究機関である静岡社会健康医学大学院大学（静岡市葵区）